

第3期 高知県スポーツ推進計画 (素案)

目 次

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景及び趣旨
2. 計画の位置付け
3. 計画の期間

第2章 本県スポーツの現状と課題

1. 地域スポーツ
2. 競技スポーツの状況
3. スポーツツーリズムの状況

第3章 計画の基本方針

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの
2. 目指す姿・基本理念・取組目標

第4章 具体的な施策・事業実施計画

1. 具体的な施策
2. 重点施策(ポンチ絵)
3. 指標一覧

第5章 計画の進捗管理

1. 進捗管理
2. 体制図

第1章

計画の概要

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景及び趣旨

高知県は、人口減少や中山間地域の衰退をはじめ南海トラフ地震への備えなど、多くの課題を抱えており、県では、これまで課題解決の先進県を目指して、経済の活性化や日本一の健康長寿県づくり、南海トラフ地震対策をはじめとする5つの基本政策と、中山間対策の充実・強化や、少子化対策の抜本強化と女性の活躍の場の拡大、文化芸術とスポーツ振興といった3つの横断的な政策を全力で実行してきました。

こうした中、平成25年11月に、県民のスポーツニーズの多様化や本県のスポーツを取り巻く環境の変化に応じたスポーツ振興を目指して、「高知県スポーツ推進計画」を策定し、取り組みを進めてまいりました。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受けて、平成27年3月に、高知県スポーツ推進計画の核となる取り組みの強化を目的に、「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を策定し、高知県スポーツ推進計画の総合的な推進を図ってまいりました。

この間、国では、平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、平成24年3月に、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」が策定され、平成27年10月にはスポーツ庁を設立し、平成29年3月には「第2期スポーツ基本計画」が新たに策定されました。

本県においても、スポーツ行政をより効果的・一体的に推進するため、平成29年4月に、これまで教育委員会が所管していたスポーツ行政(学校体育関係を除く)のほか、スポーツツーリズムや障害者スポーツなどのスポーツ関連施策を知事部局に一元化し、新たに文化生活スポーツ部を設置しました。

こうした中、「高知県スポーツ推進計画」及び「スポーツ推進プロジェクト実施計画」を統合し、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、県民がスポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことのできる社会の実現をより確実なものとするため、平成31年度から令和4年度までの5年間を対象期間とする「第2期高知県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定しました。

この期間中、令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ活動が大きく制限される中、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を経験し、改めてスポーツの素晴らしさを知ることとなりました。

こうしたことに加え、人口減少や少子高齢化の進行によるスポーツの地域間格差や、デジタル技術の進化によるライフスタイルの変化への対応、スポーツを通じた健康増進・地域活性化・共生社会の実現に向けた取り組みに大きな期待が集まっています。

このような第2期計画の期間中の動向を踏まえ、本県のスポーツのさらなる充実に向けて第3期高知県スポーツ推進計画を策定します。

2. 計画の位置づけ

この計画は、スポーツ基本法第10条第1項に定める国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即して定めることとされている「地方スポーツ推進計画」であり、本県のスポーツの推進を図るための基本的な方向性を示すものです。

3. 計画の期間

令和5(2023)年度から令和9(2027)年度までの5年間とします。

第2章

本県スポーツの現状と課題

地域スポーツの現状

子どもや成人のスポーツの実施状況

【現状・課題】

- ・運動やスポーツが好きな子どもの割合に男女差がみられる。スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にあり、子ども達がスポーツを続けられる環境が十分でない。
- ・成人のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較すると低く、年代や地域によって差がみられる。女性のスポーツ実施率が男性よりも低い。
- ・スポーツ観戦に関心があるものの割合は前回調査から増加しているが、スポーツを観戦する者の割合を増やす必要がある。

■ 運動やスポーツが好きな子供

小中ともに好きな割合は全国とほぼ同程度だが、女子の割合が低い。

○運動やスポーツが好きな子供の割合
※R3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

小中	項目	男子		女子	
		高知県	全国	高知県	全国
小学生	好き やや好き	90.1	91.0	83.4	83.7
	やや嫌い 嫌い	9.9	9.0	16.7	16.4
中学生	好き やや好き	88.0	87.3	75.5	75.4
	やや嫌い 嫌い	12.0	12.8	24.5	24.7

■ 子供のスポーツ環境

○スポーツ少年団の団数・団員数
団数、団員数ともに減少傾向
※日本スポーツ協会HP

項目	H28	R4
団数	221	184
団員数	4,332人	3,423人

○中学校の運動部活動数・部員数
高知市の部数は増加しているが、部員数は全体的に減少傾向
※スポーツ課調べ

項目	H28	R3
部数	高知市	404
	高知市以外	579
部員数	高知市	5,664人
	高知市以外	5,870人

○地域における小中学生の活動環境
※スポーツ課調べ

小・中学生とも、活動できる競技が5競技以下の市町村は全体の38.2%。また、多くの市町村において活動環境が小・中いずれかに限られている競技が見られる。

○部活動や地域スポーツクラブ加入状況
運動部や地域SCへの加入率は全国より低い状況がみられる。
※R3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

項目	男子		女子	
	高知県	全国	高知県	全国
運動部	72.6	73.8	51.2	57.1
文化部	9.7	9.9	35.1	30.5
地域SC	9.6	18.0	7.0	10.7
未所属	12.2	8.8	12.4	10.3

■ 成人のスポーツ実施率

成人の週1回以上のスポーツ実施率は男女とも向上しているが、男性よりも女性の実施率が低く、男女とも全国の数値よりは低い。また、地域によって差がみられる。

○成人の週1回以上のスポーツ実施率
※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

区分	H28	R3 ()は全国
全体	44.3%	51.0%(56.4%)
男性	46.2%	52.8%(58.5%)
女性	42.8%	50.0%(54.1%)

○地域別

安芸	香美	高知	土長	吾川	高岡	幡多
44.3	51.0	51.8	54.3	49.2	53.8	50.3

■ スポーツ観戦の状況

スポーツ観戦に関心がある者の割合は、前回調査から増加しているが、14%の者がスポーツ観戦していない。

○1年間にスポーツ観戦をした者の割合

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

項目	割合
観戦した	74.8%
観戦していない	14.0%
無回答	11.2%

■ スポーツ振興に期待する効果及び県・市町村への要望

○地域のスポーツ振興に期待する効果：上位3つ

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①健康の増進:57.0%
- ②運動やスポーツが好きな子どもの増加:41.2%
- ③子どものスポーツ環境の充実:32.4%

○県・市町村への要望：上位3つ

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①地域のニーズに応じたスポーツ教室やイベント等の実施 :34.3%
- ②誰もがスポーツ参加できる機会の拡大:29.0%
- ③子どもが地域で希望するスポーツを実施することができる仕組みづくり:28.7%

スポーツ指導者や地域スポーツの担い手

【現状・課題】

- ・スポーツを「ささえる」人材が不足しているとともに、ボランティア活動を行っている者の割合が少ない。

■ 主なスポーツ指導者数（有資格者）

公認団体	資格	取得者数
日本スポーツ協会	スタートコーチ	55人(R3)
	コーチ	1,371人(R3)
日本レクリエーション協会	インストラクター等	596人(R3)
健康・体力づくり事業財団	健康運動指導士	56人(R4)
	健康運動実践指導者	32人(R4)

■ スポーツ推進委員

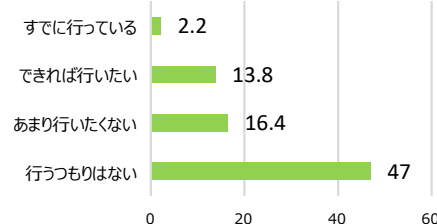
地域スポーツを支えるスポーツ推進委員は、年齢層が高くなってきており、人材の確保が懸念される。
※R3 スポーツ課調べ

項目	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	323	13	39	73	74	79	45
女性	110	0	15	24	29	26	16
合計	433	13	54	97	103	105	61

■ スポーツのボランティア活動

スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合は、前回調査から減少し、2.2%と非常に少なく、ボランティアを行うことに消極的な考えの者の割合が高い。スポーツ活動における課題として支える人材の確保を課題と捉えている市町村は多い。

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

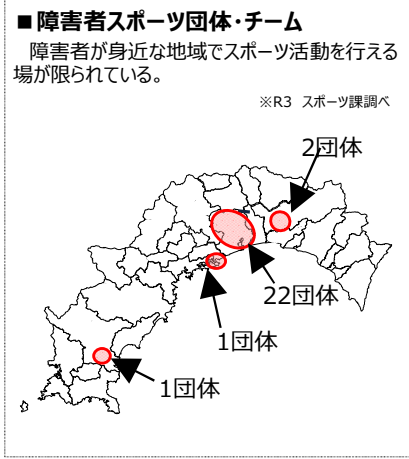


地域スポーツの現状

■ 障害者スポーツ

【現状・課題】

- ・障害者が活動ができる場が少なく、選手として活動している人数も少ない。
- ・障害者スポーツへの関心はまだ高いとは言えず、支援体制も十分でない。

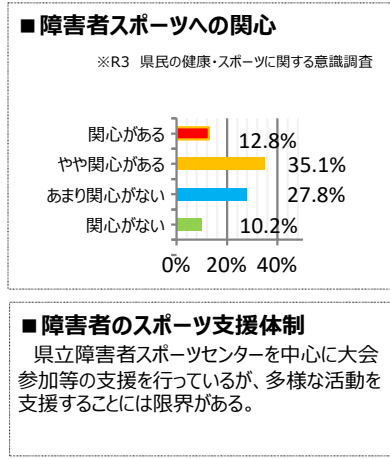


■ 中央競技団体への登録者

全国大会などを目指して取り組むために中央競技団体に登録している選手が少ない。

※R3 スポーツ課調べ

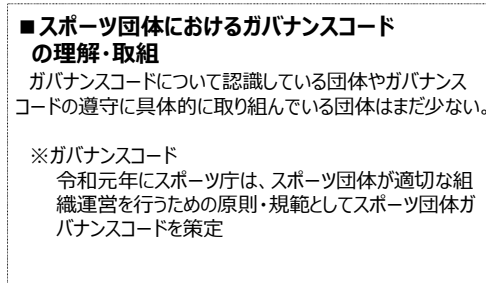
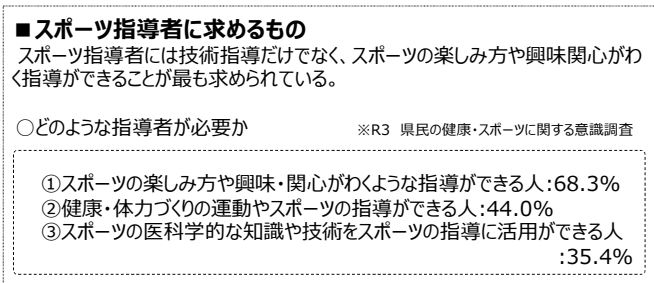
年度	男性	女性	合計
H28	150	30	180
H29	163	29	192
H30	146	35	181
R1	142	35	177
R2	109	37	146
R3	135	36	171
R4	153	39	192



■ スポーツにおける安心・安全の確保

【現状・課題】

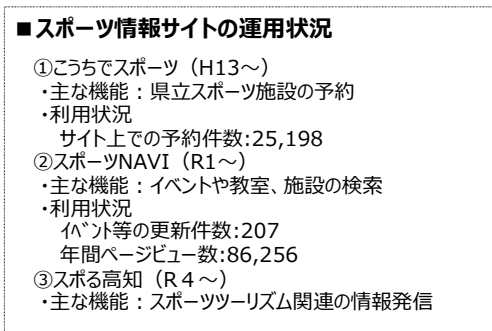
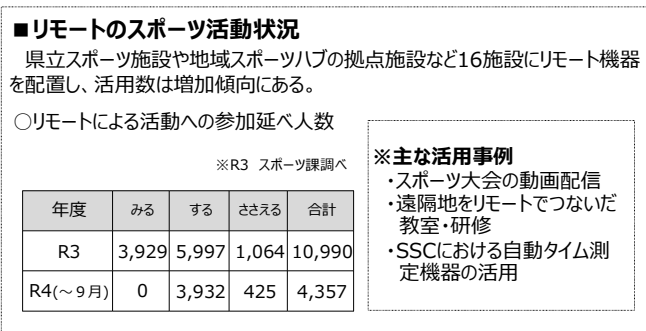
- ・多様な形で安心・安全にスポーツを楽しむことができるよう、指導者や支える団体の取組の質的向上が求められている。



■ 地域スポーツにおけるデジタル技術の活用

【現状・課題】

- ・スポーツに参加しやすい環境づくりやスポーツに出会う機会を提供するためには、デジタル技術の効果的な活用が必要。



地域スポーツの現状

■ 地域におけるスポーツ振興の課題や多様な主体の連携

【現状・課題】

〔 ・多様化するスポーツの課題やニーズに対応する体制が十分でない。 〕

■ 市町村におけるスポーツ振興を行う上での課題

市町村においてスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。

○市町村においてスポーツ振興を進めるうえでの課題（単位：市町村数）

- ①：子供のスポーツ環境の整備・充実（30）
- ②：課題対策を進めるためのスタッフの不足（30）
- ③：課題対策に取り組むための財源不足（29）
- ④：課題の把握や検討する場の設定などの調整役となる人材の確保（21）
- ⑤：財政的な支援だけでなく、県職員や民間事業者による側面的な支援が必要（21）
- ⑥：多分野の関係者が課題について検討・対応する体制が必要（20）

※R3 スポーツ課調べ

■ 多様な主体の連携

スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場が少ない。

■ スポーツを通じた健康増進

【現状・課題】

〔 ・健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。 〕

■ 日常生活における歩数

男性は平成28年と比較して歩数が増加傾向を示しているが、男女とも目標値には達していない。

H28	R3
<ul style="list-style-type: none"> ●20～64歳 男性:6,387歩 女性:6,277歩 ●65歳以上 男性:4,572歩 女性:4,459歩 	<ul style="list-style-type: none"> ●20歳以上 男性:8,058歩 女性:6,315歩
※県民健康・栄養調査	※健康パスポートアプリ利用者の1日あたり平均歩数 ※保健政策課調べ

■ 健康パスポート取得者数

取得者数が増加している。

H30.2月末	R3
23,715人	50,688人

■ スポーツ振興に期待する効果

健康増進への効果を期待する者が最も多い。

○地域のスポーツ振興に期待する効果：上位3つ

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①健康の増進:57.0%
- ②運動やスポーツが好きな子供の増加:41.2%
- ③子供のスポーツ環境の実:32.4%

競技スポーツ

■日本代表選手及び各種大会の実績、スポーツ医科学の活用、有望選手の発掘・育成

【現状・課題】

- ・全国や世界の舞台で優秀な成績を収めている競技が限定されており、全体的な底上げを図るためには、競技団体の組織的な取組の質を高めることが必要。
- ・県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。
- ・競技団体などにおけるスポーツ医科学の活用は増加しているものの、より効果的な活用に向けて各競技の特性や個人の実情に応じたサポートを行っていくことが必要。

■日本を代表する選手等

日本代表などとして国際大会に出場、入賞する選手が育ってきている。

○日本代表選手数及び国際大会入賞数・競技数 ※スポーツ課調べ

年度	代表選手数	入賞数	競技数
H29	35	20	12
R1	31	16	8
R2	-	-	-
R3	9	7	7
R4	8	7	4

■国民体育大会の成績

栃木国体においては、獲得得点、入賞競技数、総合順位ともに前回大会（R1茨城国体）の成績を上回り、成果がみられる。

※スポーツ課調べ

年度	総合順位	獲得得点(点)	入賞競技数
愛媛国体（H29）	47位	552.5	15
福井国体（H30）	47位	506.75	10
茨城国体（R1）	46位	630	10
栃木国体（R4）	46位	673	15

■中高校生の全国大会の成績

全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の入賞競技数は、ここ数年ほぼ横ばい。

※スポーツ課調べ

年度	H29	H30	R1	R3	R4
全国中学校体育大会	6	5	5	6	6
全国高等学校総合体育大会（インターハイ）	6	5	8	7	10

■スポーツ科学センターの活用状況

スポーツ科学センターを活用する競技団体は着実に増加しているが、その内容や頻度はまだ十分でない。

※スポーツ課調べ

組織的に活用している競技団体数	R1	R2	R3
	10	8	10
サポート内容	R1	R2	R3
専門体力測定	514	466	498
コンディショニング	461	713	821
メンタルトレーニング	41	106	4
栄養指導	168	62	122
映像等	75	169	84

■タレント発掘事業(くろしおキッズ)の現状

※スポーツ課調べ

○修了生

H22年度からR3年度 延べ219人

○H27年からの主な成績

- ・国際大会出場者数: 6名
- ・国体出場者数: 20名

<主な成績>

- ・全国小学生陸上交流大会 女子100m優勝
- ・女子Jrジュニア日本代表（ハンドボール）
- ・女子レスリング全日本Jrオリンピック優勝
- ・男子フェンシング(サーブル)インターハイ入賞
- ・卓球国際大会Jrベスト8 等

■スポーツ指導者

【現状・課題】

- ・スポーツ指導の基本的な知識を有し、選手の発達段階や技術レベルに応じた指導ができる人材の育成が求められている。

■スポーツ指導者数（有資格者）

※R3 日本スポーツ協会・日本レクリエーション公表資料

公認団体	資格	取得者数
日本スポーツ協会 ・公認指導者	スタートコーチ	55人
	コーチ	1,371人
パラスポーツ協会 ・障がい者スポーツ指導員	初級	132人
	中級	53人
	上級	18人

■スポーツ指導者に求めるもの

スポーツ指導者には技術指導だけでなく、スポーツの楽しみ方や興味関心がわく指導ができることが最も求められている。

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人: 68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人: 44.0%
- ③スポーツの医学的な知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人: 35.4%
- ④障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人: 29.5%
- ⑤年間を通して定期的に指導ができる人: 28.5人

競技スポーツ

■ 競技スポーツにおけるデジタル技術の活用

【現状・課題】

・競技力向上につながるデジタル技術の活用事例は少ない。

■ デジタル化したらよいと思うスポーツ活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①ウイズコロナ・アフターコロナ社会に対応したスポーツ教室等の実施:43.1%
- ②スポーツ施設の予約の申込:34.6%
- ③スポーツ大会やイベントの申込:28.4%
- ④スポーツ大会や研修の動画配信:20.2%
- ⑤県内のスポーツ選手や指導者の情報:15.9%
- ⑥競技力の向上に向けたスポーツ医科学や機器の活用:13.6%
- ⑦その他:5.2%
- ⑧無回答:13.6%

■ 競技力向上につながる主なデジタル機器の活用

高知県スポーツ科学センターやスポーツ団体におけるデジタル機器の活用はまだ少ない。

○SSCにおけるデジタル機器の活用

- ・リモートによる研修
- ・自動タイム測定機器

○スポーツ団体におけるデジタル機器の活用

- ・大会の動画配信

■ 競技スポーツを支える体制

【現状・課題】

・高知県スポーツ科学センターが協力を得られている関係者は限定的。
・障害者の競技力向上を支援する体制が不十分。

■ 高知県スポーツ科学センターが行うスポーツ医科学関連事業に対する関係団体・関係者からの協力

高知県スポーツ科学センターが行うトレーニング指導や栄養指導、メンタルトレーニングのほか、メディカルチェックなどの取組において協力が得られる関係団体や関係者の拡大が必要。

- ・高知県アスレティックトレーナー協会:6名
- ・高知県栄養士協会:7名
- ・高知県医師会:13名
- ・メンタルトレーニング関連:1名
- ・高知県理学療法士協会:8名

■ 障害者の選手育成や競技力向上への支援

・多くが任意の団体であり、事務局に専任スタッフが配置されている団体はごくわずか。
・競技力向上に必要な対応が十分にできていない団体が多い。
・既存の競技団体が障害者スポーツの普及や選手育成・強化、大会の運営、指導者や審判の育成などを行うことは難しい。

法人格がある競技団体	7
専任のスタッフを配置している競技団体	2

スポーツツーリズム

■スポーツによる県外からの誘客

【現状・課題】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツによる県外からの入込客数は大幅に減少している。
- ・地域におけるスポーツツーリズムの取組状況には地域差がみられる。
- ・スポーツへの関心の高まりや競技力の向上、経済の活性化につながる大規模大会の本県開催は、年度ごとに差がある。

■スポーツによる県外からの入込客数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響で入込客数は大幅に減少している

※R3 スポーツ課調べ

H29	88,040人
H30	90,430人
R1	98,296人
R2	40,074人
R3	11,448人

■スポーツ合宿の主な受け入れ施設

アマチュアスポーツ合宿の受け入れが一部の地域・施設に集中している

※R3 スポーツ課調べ

主な受入施設	市町村	受入数
土佐西南大規模公園	黒潮町	23
春野総合運動公園	高知市	14
高知市東部運動場	高知市	6
サンピアシリーズ	高知市	4
県民体育館	高知市	3
高知市総合体育館	高知市	3
雲の上のプール	梶原町	3
野市体育館	香南市	3
安並運動公園	四万十市	3

■地域におけるスポーツツーリズム等の取組状況

スポーツツーリズムなどの地域活性化を図る取組を実施している市町村は多くない状況がみられる。

<主な取組>

- ・マラソン大会
- ・カヌーやSUP体験
- ・全国規模の水泳大会
- ・サイクリングイベント
- ・少年サッカー大会

<主な課題>

- ・企画運営するためのマンパワーや財源の不足
- ・運営をサポートするボランティアの不足及び高齢化
- ・施設の老朽化及び不足
- ・イベント会場周辺の宿泊施設等の環境が不十分
- ・参加者の固定化

■全国規模の大会開催状況

<主な大会>

OR2

- ・全日本教職員バドミントン選手権大会
- ・全国高等学校相撲選抜大会
- ・日本高校ダンス部選手権

OR3

- ・日本選手権オープンウォーター競技
- ・全日本障害者ライフル射撃競技選手権大会

OR4

- ・全国高等専門学校体育大会
- ・全日本シニアバドミントン選手権大会
- ・四国インターハイ
- ・ソフトボールアジアカップ
- ・水泳の日
- ・ジャパンサイクルリーグ高知大会

■スポーツを通じた国際交流

【現状・課題】

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーWCのレガシーを今後のスポーツ振興や多分野の活性化につなげることが必要。

■交流実績及び連携協定の締結状況

※下線は連携協定を締結した交流

- シンガポール
 - ①スポーツシンガポール－高知県バドミントン協会
 - ②シンガポールスポーツスクール－高知県教育委員会
- チェコ共和国
 - ①チェコオリンピック委員会－須崎市／高知県カヌー協会
 - ②チェコカヌー連盟－高知県カヌー協会
 - ③チェコソフトボール協会－高知県ソフトボール協会
- オランダ
 - ①オランダ自転車関係者－宿毛市
 - ②オランダサッカー関係者－高知県サッカー協会
- オーストラリア
 - ①ソフトボールクイーンズランド－高知県ソフトボール協会／嶺北高校
- トンガ王国
 - ①トンガコミュニティ関係者－高知県ラグビーフットボール協会
- ハンガリー
 - ①ハンガリー関係者－土佐町／本山町／須崎市／嶺北高校

スポーツツーリズム

■ デジタル技術の活用

【現状・課題】

・ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえ、多様なスポーツ活動においてデジタル技術を効果的に活用することが求められている。

■ スポーツ情報サイトの活用状況

- ①こうちでスポーツ (H13～)
 - ・主な機能：県立スポーツ施設の予約
 - ・利用状況
サイト上での予約件数:25,198
- ②スポーツNAVI (R1～)
 - ・主な機能：イベントや教室、施設の検索
 - ・利用状況
イベント等の更新件数:207
年間ページビュー数:86,256
- ③スポる高知 (R4～)
 - ・主な機能：スポーツツーリズム関連の情報発信

■ デジタル化したらよいと思うスポーツ活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①ウィズコロナ・アフターコロナ社会に対応したスポーツ教室等の実施:43.1%
- ②スポーツ施設の予約の申:34.6%
- ③スポーツ大会やイベントの申込:28.4%
- ④スポーツ大会や研修の動画配信:20.2%
- ⑤県内のスポーツ選手や指導者の情報:15.9%
- ⑥競技力の向上に向けたスポーツ医科学や機器の活用:13.6%
- ⑦その他:5.2%
- ⑧無回答:13.6%

■ 市町村におけるスポーツを通じた地域活性化の取組

【現状・課題】

・スポーツを通じた地域活性化の取組を効果的に進めるためには他分野の関係者の連携が不可欠だが、連携状況は不十分。

■ 市町村におけるスポーツツーリズム等の地域活性化の取組の現状・課題

- 現状
スポーツツーリズムなどの地域活性化を図る取組を実施している市町村は多くない状況がみられる。
<主な取組>
 - ・マラソン大会 ・カヌーやSUP体験 ・全国規模の水泳大会
 - ・サイクリングイベント ・少年サッカー大会
- 主な課題
 - ・企画運営するためのマンパワーや財源の不足
 - ・運営をサポートするボランティアの不足及び高齢化
 - ・施設の老朽化及び不足
 - ・イベント会場周辺の宿泊施設等の環境が不十分
 - ・参加者の固定化
- 県に対する主な要望
 - ・運営を行う人的・財政的な支援 ・地域のスポーツ情報の発信
 - ・成功事例の紹介及びノウハウの提供 ・施設整備への補助

第3章

計画の基本方針

第3章 計画の基本方針

1. 第3期高知県スポーツ推進計画が目指すもの

第2期高知県スポーツ推進計画において、「スポーツ参加の拡大」、「競技力の向上」、「スポーツを通じた活力ある県づくり」の3本の柱を掲げるとともに、3本の柱に横断的に関わる施策の方向性として「オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興」を示し、様々な取組を進めてきました。

本県のスポーツの現状は、子どもの運動習慣や体力は全国平均と同程度に改善されてきましたが、子ども達がスポーツを続けられる環境はまだ十分ではありません。一方、成人のスポーツ実施率は向上傾向にありますが、全国と比較するとまだ低く、年代や地域によって差がみられます。

また、障害者スポーツに関しては、身近な地域でスポーツに親しむ環境が十分でないことや、競技者として全国や世界を目指す活動は少ない状況がみられます。

他方、競技スポーツにおいては、全国や世界の舞台で活躍する選手が育ってきていますが、その競技は限定的で全体的な底上げが必要です。

さらに、スポーツによる県外からの来客数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年から激減しています。

加えて、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を通じて得られた、県民のスポーツへの関心の高まりやホストタウン国などとのつながりといったレガシーを今後の本県のスポーツ振興につなげていくことが求められています。

こうした現状を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大やデジタル技術の革新によるライフスタイルの変化などの社会環境の変化にも対応するため、持続可能なスポーツ環境づくりを産学官民が強く連携して取り組みを進めていく必要があります。

特に、子どものスポーツ環境は、生涯にわたるスポーツ参加や競技力の向上、健康づくりなどの土台となるものであり、大変重要と考えます。また、障害者のスポーツ環境づくりは、誰もがスポーツに安心して親しむことができることにつながるものです。こうした、全ての県民のスポーツ活動の基盤となるスポーツ環境づくりに重点的に対応していくことが必要と考えます。

そうした環境づくりに加えて、全ての県民が多様なスタイルでスポーツに親しむことができるようにするためには、スポーツを楽しみと感じ、自ら進んで参加する人が増えることが重要ですので、安心・安全にスポーツに触れる機会やスポーツを通して多くの方が交流する機会を増やしていく必要があります。

こうしたことから、「第3期高知県スポーツ推進計画」では、誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境をつくるとともに、スポーツを通じて全ての県民や県内全ての地域を元気にする取り組みを進め、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力ある社会の実現を目指します。

さらに、スポーツは他分野の取り組みとの親和性が高く、スポーツを通して多分野の施策の推進にもつなげることを見据え、県が示す各種計画と関連付けた取り組みを推進するとともに、スポーツを通じてグローバルな社会課題を解決し、持続可能な世界の実現を目指すための国際目標であるSDGs(*)の達成に貢献していきます。

本計画でのスポーツは、競技としてルールに則り活動する陸上競技や球技、武道などだけではなく、体操、ダンス、レクリエーションとして行われる身体活動や、軽度の運動も含むものとしていきます。ただし、具体的な施策の記述に当たっては、例えば、幼児期における外遊び・運動や、壮年期・老年期における運動習慣の確立などでは、よりイメージしやすいよう、「遊び」や「運動」といった言葉を用いています。

(*)SDGs:持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で17のゴールと169のターゲットで構成されている。

<目指す姿と計画の基本理念>

目指す姿

スポーツの楽しさや感動を共有し
希望と活力ある社会の実現

計画の基本理念

(1)誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境づくりを推進する

(2)スポーツを通じて全ての県民や地域を元気にする

<取り組み目標>

施策の柱① スポーツ参加の拡大

運動やスポーツが好きな子どもを増やす
全ての地域で多様なスポーツ参加を拡大する

主な目標

- 運動が好きな子どもの割合 **R4から5ポイント増**
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率 **65%**
- 障害者が活動できるチームや団体 **36**

施策の柱② 競技力の向上

全国や世界で活躍する選手を多数輩出する

主な目標

- 全国入賞や国際大会出場する選手・団体 **100**
- 全国や世界を目指す障害者アスリート **220**

施策の柱③ スポーツを通じた活力ある県づくり

スポーツを通じて地域や経済を活性化する

主な目標

- スポーツによる県外からの入込客数 **12万人**

第4章

具体的な施策

第4章 具体的な施策

1. スポーツ参加の拡大

(1) 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充

① 子供のスポーツ環境づくりの推進

○子ども達が身近な地域で希望するスポーツを続けられるようにするため、新たなスポーツサークルの立ち上げや運動部活動の地域移行など、地域における子どものスポーツ環境づくりを進めます。

また、子どものスポーツ機会の拡充に向けて、高知県スポーツコミッション等と連携し、市町村の取り組みを支援するとともに広域で連携する取り組みを行います。

【指標】 ・子供のスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数 R4:0→R9:34
・広域で連携する体制ができているエリアの数 R4:0→R9:6

② 子供が楽しくスポーツができる機会の拡充

○スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しむ子どもを増やすため、親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知る体力測定、多様な種目を体験できるプログラムを県内各地で提供するとともに、オリンピックやパラリンピアン、プロ選手などによる講演やスポーツ教室を実施します。

○子どものスポーツ機会を増やし、スポーツに対する意欲を高めるため、スポーツ少年団の交流大会の充実を図ります。

○運動やスポーツが好きになる子どもを増やすため、学校の体育授業の充実に取り組みます。

【指標】 ・マッチングプログラムの参加者数 R4:1,420人→R9:R5から前年度比10%増の累計9,000人
・子供の運動能力の向上
小中学生の男女とも全国平均を上回る

③ 地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進

○健康づくりや生きがいづくりに向けて、地域住民のニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツを通じた健康づくりの取り組みや、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実を図る取り組みを推進します。

○中山間地域におけるリモートによるスポーツ活動の推進や誰もが気軽に参加できるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。

【指標】 ・各地域のスポーツ実施率 R4と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

④ 女性のスポーツ活動の促進

○女性のスポーツ参加の拡大を図るため、有識者やスポーツ団体関係者等で構成する「女性のスポーツ推進を検討する場」を通じて効果的な取り組みを進めます。

また、女性特有のスポーツ傷害予防のためのスポーツ医科学面からのサポートや情報提供などを行います。

【指標】 ・女性の週1回以上のスポーツ実施率 R3:50%→R9:65%

⑤スポーツ情報の発信強化

○より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(こうちでスポーツ)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「こうちでスポーツ」のページビュー数 R4: 8万→R9:11万
・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

⑥新たなスポーツ等の推進

○多様なスポーツに親しむことができるようにするため、オリンピック・パラリンピック競技等で注目された新たな競技等の普及促進を図ります。

【指標】 ・ 新たな競技の競技人口が増加する

⑦スポーツ施設の整備

○身近な地域において気軽にスポーツに親しむことができるようにするため、広域のスポーツ振興に効果をもたらす施設整備を支援するとともに、学校体育施設の有効活用を進めます。

【指標】 ・ 必要な整備や活用が計画的に進められている

(2)担い手の育成及び活動の活性化

①指導者育成及びマッチング

○有資格指導者の育成及びスポーツ現場における指導者を確保するため、指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施します。

また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体が連携して指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】 ・ 有資格指導者の数 R9:R4から10%増
・ 指導者をマッチングする体制が整っている

②スポーツ推進委員の活動の活性化

○スポーツ推進委員が地域スポーツの企画・調整役としてより活発に活動できるよう、スポーツ推進委員研修会の実施やスポーツ推進委員が地域のスポーツイベントなどをコーディネートする取り組みを支援します。

【指標】 ・ スポーツ推進委員が核となり企画・調整する地域のイベント等が増加する

③スポーツボランティアの育成

○誰もが安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、地域におけるスポーツボランティアの増加を図るため、スポーツイベントにおいてボランティアの活動意欲を高めるコーディネートや研修を実施します。

【指標】 ・ 公募ボランティアが増加したイベント数 R4: 0→R9:12

④大学等と連携した若者のスポーツ参加の拡大

○将来の担い手確保を見据え、スポーツに関わる若者を増やすため、スポーツイベント等の企画・運営への若者の参加を促すとともに、大学やスポーツ団体等と連携し、高校生や大学生がスポーツについて意見を交わすスポーツサミットの活性化に取り組みます。

【指標】・スポーツサミット等を通して、若者の協力を得て実施するイベント等の数 R4:0→R9:10

(3) 障害者がスポーツに親しめる環境づくり

①身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

○障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できるようにするため、学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、既存のスポーツ活動への障害者の受け入れを進めるとともに、親子で楽しめる運動プログラムのほかパラリンピアンなどによる講演やスポーツ教室を実施します。

【指標】・障害者がスポーツ活動ができる団体数 R4:26→R9:36

②障害者スポーツの活動支援

○障害者の多様なスポーツ参加を拡充するため、高知県社会福祉協議会等と連携し、障害者スポーツセンターを核とした地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチングの実施やサポートする人材の育成を行います。

また、全国や世界を目指す競技者の活動を支援するほか、障害者スポーツの情報の活用強化や障害者スポーツの理解啓発の取り組みを行います。

【指標】・障害者スポーツセンターと連携し地域の活動支援を行う体制ができているエリアの数 R4:1→R9:6
・中央競技団体への登録者 R4:192→R9:220

③有望選手の発掘・育成

○全国や世界を目指して活動する選手を増やすため、特定の競技において有望選手を発掘し育成する取り組みを行います。

【指標】・発掘の取組により中央競技団体に登録した選手数 R4:0→R9:25

④障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実

○障害者がより安心・安全にスポーツに取り組むことができるようにするため、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

【指標】・R9までに支援体制ができている

⑤障害者のスポーツ大会誘致

○障害者のスポーツ参加の機運や県民の障害者スポーツへの関心を高めるため、障害者スポーツ大会やイベントの誘致を進めます。

【指標】・誘致した大会数 R4:1→R9:5 (R5からの累積数)

(4) スポーツにおける安心・安全の確保

① 子供の発達段階等に応じたスポーツ指導の推進

○子どもがスポーツを好きになり、楽しくスポーツを続けられるようにするため、高知県スポーツコミッション等と連携し、子どものスポーツ指導にあたる地域の指導者や教員、大学生などを対象に、子どものやる気を引き出す指導の在り方等について学ぶ機会を提供します。

【指標】 ・ 指導者が学ぶ機会
すべてのエリアにおいて学ぶ機会が提供されている

② スポーツ団体における適正なガバナンスの推進

○スポーツ団体において適切な組織運営が行われるようにするため、高知県スポーツ協会と連携し、競技団体やスポーツ少年団などスポーツ団体における適切なガバナンスに基づく活動を推進します。

【指標】 ・ ガバナンスコードに基づいた取組を行っている団体が増加する

③ スポーツにおけるけが・事故の防止

○多様なスポーツ実践において、けがや事故をなくすため、スポーツ傷害やスポーツによる事故に関する研修会等を実施します。

【指標】 ・ 研修会の参加者数 R5からR9まで毎年50名以上

(5) デジタル技術の活用

① リモートによるスポーツ活動の推進

○中山間地域におけるスポーツ参加の拡大やより効果的なスポーツ活動が行われるよう、総合型地域スポーツクラブ等がリモート機器を活用する取り組みを支援するとともに、大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。

また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等の充実を図ります。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4:6,730人→R9:10,840人

② スポーツ情報の発信強化【再掲】

○より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつなげるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(こうちでスポーツ)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・ 「こうちでスポーツ」のページビュー数 R4:8万→R9:11万
・ 「スポるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

(6) スポーツを通じた健康増進

① 高知家健康パスポートアプリを活用した健康づくりの推進

○ 県民の健康意識のさらなる醸成と行動の定着化を図るため、日常的な健康づくり活動の促進を図ります。

【KPI】 ・ 健康パスポートアプリDL件数 R4: ** → R9: **
・ 日常生活における歩数 R4: ** → R9: **

② 地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進（再掲）

- 健康づくりや生きがいづくりに向けて、地域住民のニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動が広がるようにするため、総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツを通じた健康づくりの取り組みや、スポーツ推進委員による多世代参加型のイベント等の普及・充実を図る取り組みを推進します。
- 中山間地域におけるリモートによるスポーツ活動の推進や誰もが気軽に参加できるレクリエーション大会などのスポーツイベントを開催します。

【指標】 ・ 各地域のスポーツ実施率
R4と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

(7) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

① 地域において関係者が連携する体制づくり

○ 地域におけるスポーツに関する課題に対して継続した取り組みが進められるようにするため、市町村における子どものスポーツ環境づくりを推進する体制づくりや、子どものスポーツ機会の拡充に向けて広域で連携する体制づくりを進めます。

【指標】 ・ 子供のスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制がある市町村の数 R4: 0 → R9: 34
・ 広域で連携する体制ができているエリアの数 R4: 0 → R9: 6

② 多様な主体のネットワークづくり

○ 多様化するスポーツのニーズを捉えた新たな取り組みを促進するため、スポーツを推進する多様な主体が集い、意見交換や情報共有する場の充実を図ります。

【指標】 ・ 多様な主体の意見交換や情報共有する場への参加団体数が増加する

③ 企業が県内スポーツを支援する体制づくり

○ 県内のスポーツ活動の充実を図るため、競技者や指導者の県内企業への受け入れなど、県内スポーツへの支援を検討する場を通じた取り組みを推進します。

【指標】 ・ 県内スポーツ支援を検討する場に参加する企業が増加する

2. 競技力の向上

(1) 全国や世界を目指す選手の育成

① 競技団体における組織的な選手育成の推進

○質の高い選手育成の取り組みが継続的に進められるよう、高知県スポーツ協会と連携し、競技団体におけるPDCAによる計画的・組織的に選手を育成・強化する取り組みを進めるとともに、全高知チームによる重点強化の実施や特別強化選手を指定した有望選手の活動のさらなる充実を図ります。

【指標】 ・各競技団体が計画的にジュニア選手の育成に取り組んでいる

② 全国大会を目指す中学生・高校生の選手育成の推進

○全国大会等で入賞する中・高校生の増加を図るため、高知県中学校体育連盟を通じた中学生の選手育成活動や、競技団体における高校生の選手強化及び有望な高等学校運動部の活動のさらなる充実を図ります。

【指標】 ・全国中学校体育大会(全中)及び全国高等学校総合体育大会(IH)の入賞競技数
<全中>R4:6→R9:8 <IH>R4:10→R9:15

③ 競技力向上に向けたスポーツ医科学の活用

○競技団体等において科学的な根拠に基づく効果的なトレーニングや練習等が行われるとともに、スポーツ傷害の予防・軽減につなげるため、高知県スポーツ振興財団と連携し、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学面から選手や指導者等をサポートする取り組みを推進します。また、競技団体がスポーツ医科学を計画的に活用できるよう、高知県スポーツ科学センターが各競技団体を計画段階からサポートする取り組みを実施するとともに、学校の部活動で活用できるトレーニングメニューの提供などを行います。

【指標】 ・スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数
R4:20→R9:30

④ 有望なジュニア選手を発掘・育成する取組の推進

○有望選手を発掘するとともに、個々の適性に応じた競技選択の幅を広げ、全国や世界で活躍する選手を輩出するため、小学生を対象とした有望選手を発掘し、運動能力やスポーツに対する意識を高めるプログラムを提供する取り組みを実施します。
また、全国や世界を目指す障害者スポーツの有望選手を発掘・育成する取り組みを進めます。

【指標】 ・高知くろしおキッズに応募する選手数 R3:166→R9:200
・障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数 R4:0→R9:25

⑤ 選手や指導者を県内に受け入れる仕組みづくり

○優秀な選手や指導者が継続して活動できるようにするため、県内企業やスポーツ団体等と連携し、競技者や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりを進めます。

【指標】 ・選手や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みができている

⑥ 競技拠点施設の計画的な整備

○各競技において計画的かつ質の高い育成・強化活動が進められるよう、競技の拠点となる施設の整備を検討・実施します。

【指標】 ・必要に応じて計画的な施設整備が進んでいる

(2) 担い手の育成及び活動の活性化

① 指導者育成及びマッチング〔再掲〕

○有資格指導者の育成及びスポーツ現場における指導者を確保するため、指導者資格の取得及び更新のための講習会の実施します。

また、県教育委員会や高知県スポーツ協会、高知県スポーツコミッションなどの関係機関・団体が連携して指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用を行います。

【指標】 ・ 有資格指導者の数 R9:R4から10%増
・ 指導者をマッチングする体制が整っている

② 競技力向上に向けた県内指導者の資質向上

○県内指導者の指導力を高めるため、全高知チームにおいてトップコーチから学ぶ実践研修を推進するとともに、高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学研修を実施します。

【指標】 ・ 全ての全高知チームにおいて事前研修が行われている
・ 高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数
R5からR9まで毎年50名以上

(3) デジタル技術の活用

① 選手の育成につながるリモートの効果的な活用

○変化する社会環境や地理的ハンディにおいても効果的な指導等を行うことができるよう、各種スポーツ大会の動画の配信や大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修を実施します。また、高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医科学研修やトレーニング指導等を推進します。

【指標】 ・ リモートによる活動への参加者数 R4:6,730人→R9:10,840人

② 選手の育成におけるデジタル技術の活用

○競技力向上に向けた練習の質的向上を図るため、競技団体において技術や戦術の向上につながるデジタル機器の活用を促進するとともに、高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器のさらなる活用を進めます。

【指標】 ・ 競技団体等においてデジタル機器の活用が進んでいる

(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

① スポーツ医科学面からの支援体制の強化

○利用者のニーズに応えられるスポーツ医科学面からのサポートを行うことができるよう、高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携・協力体制の充実を図ります。

【指標】 ・ SSCと連携する外部スタッフ数 R4:35人→R9:45人

② 障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実(再掲)

○障害者がより安心・安全にスポーツに取り組むことができるようにするため、関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制の充実を図ります。

【指標】 ・ R9までに支援体制ができている

3. スポーツを通じた活力ある県づくり

(1) スポーツを通じた地域活性化・まちづくり

① プロスポーツ・トップチームの誘致

○県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、高知県観光コンベンション協会等と連携し、プロスポーツチームのキャンプ・大会の誘致やトップリーグチームの合宿の誘致に取り組みます。

【指標】 ・プロスポーツチーム等の誘致による県外からの入込客数
R4:2.3万人→R9:8万人

② アマチュアスポーツ合宿の誘致

○交流人口の拡大により、本県のスポーツ振興及び地域・経済の活性化につなげるため、高知県観光コンベンション協会等と連携し、関西圏をターゲットとした誘致活動や市町村と連携した情報発信及びプロモーションによるアマチュアスポーツ合宿の誘致に取り組みます。

【指標】 ・アマチュアスポーツ合宿の誘致による県外からの入込客数
R4:5千人→R9:1万人

③ 地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進

○地域の交流人口の拡大により、地域におけるスポーツへの気運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、地域の特色を活かした市町村ごとのスポーツツーリズムの取り組みの充実を図ります。

また、本県の豊かな自然環境と「ぐるっと高知サイクリングロード」を活用したサイクリングツーリズムを推進するとともに、スポーツツーリズムのWEBサイトを活用したスポーツ情報の発信やプロモーションを強化します。

【指標】 ・市町村におけるスポーツによる県外からの入込客数が増加している

④ スポーツ大会の開催及び誘致

○県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、自然環境を活かしたスポーツ大会開催支援制度により大会の開催を促進するとともに、障害者スポーツ大会の誘致や高知龍馬マラソンの開催に取り組みます。

【指標】 ・スポーツ大会による県外からの入込客数 R4:5千人→R9:3万人

⑤ 地元プロチーム等の活動の充実を通じた地域活性化の推進

○県民のスポーツに対する関心の高まりやホーム戦における県内外の観客増県外からの誘客につなげるため、高知ファイティングドッグスや高知ユナイテッドスポーツクラブといった地元プロチーム等の活動を支援します。

【指標】 ・地元プロチームのホーム戦の県外からの入込客数
<高知FD> R4:8,622人→R9:1万人
<高知USC> R4:11,490人→R9:2万人

⑥ 広域のスポーツ振興につながるスポーツ施設の整備

○市町村におけるスポーツ振興や本県の競技力向上につなげるため、本県の競技力向上や広域のスポーツツーリズムの活性化につながるスポーツ施設の整備を支援します。

【指標】 ・必要な整備や有効活用が計画的に進められている

(2) スポーツを通じた国際交流

① 海外の国や地域とのスポーツ交流の実施

○海外の選手や指導者との交流により競技力向上や異文化理解促進を図るため、ホストタウン等により関係を構築した国との相互交流等を実施します。

・シンガポール ・チェコ ・オーストラリア ・トンガ ・オランダ 等

【指標】 ・連携協定による交流の継続及び他分野の交流につながっている

② 世界大会等の事前合宿の受け入れ

○県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、今後国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れに取り組みます。

＜主なターゲット大会＞

- ・デフリンピック(令和7年／2025年／東京)
- ・アジア大会(令和8年／2026年／愛知)
- ・ワールドマスターズゲームズ(令和9年／2027年 関西)

【指標】 ・事前合宿の受け入れの実現

(3) デジタル技術の活用

① スポーツ情報の発信強化(再掲)

○より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつなげるため、スポーツ施設やスポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイト(こうちでスポーツ)と県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト(スポるKOCHI)を活用し、情報発信及びプロモーションを行います。

【指標】 ・「こうちでスポーツ」のページビュー数 R4: 8万→R9: 11万
・「スポるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

(4) 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

① スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体等との連携強化

○市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取り組みが効果的に進められるよう、市町村担当者会における情報共有や意見交換を実施することを通じて、県と市町村と民間団体等の連携を強化します。

【指標】 ・市町村担当者会でスポーツツーリズムの検討が行われている

重点施策

重点施策のポンチ絵

指標一覽

第5章

計画の進捗管理

第5章 計画の進捗管理

1.進捗管理

本計画は、本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進するため、知事を本部長に庁内に設置した「高知県スポーツ振興推進本部」と県内の産学官民が連携・協力して本県のスポーツ振興をより強力に推進していくことを目的に、2つの専門部会を設置した「高知県スポーツ振興県民会議」(審議会)が両輪となって、計画の検証・評価を行い、計画の着実な実行に向けて進捗管理を行います。

2.体制図

高知県スポーツ振興県民会議

産学官民が連携して本県全体のスポーツ振興を強力に推進
(役割)

- ・高知県スポーツ推進計画の検証・評価、提案
- ・スポーツ振興への協力・支援

(構成員)

スポーツ関係団体、商工業、企業スポーツ、交通運輸、生涯スポーツ、スポーツツーリズム、障害者スポーツ、市町村長代表者、有識者

専門部会

スポーツ振興に関する専門分野を調査・審議・提案する

- 地域スポーツ推進部会
- 競技力向上部会

高知県スポーツ振興推進本部

本県のスポーツ振興施策を組織横断的に一体となって推進
(役割)

- ・「高知県スポーツ推進計画」の着実な実行とPDCAサイクルの徹底

(構成員)

本部長	知事
副本部長	副知事
本部次長	文化生活スポーツ部長
本部員	総務部長
本部員	健康政策部長
本部員	子ども・福祉政策部長
本部員	産業振興推進部長
本部員	中山間振興・交通部長
本部員	商工労働部長
本部員	観光振興部長
本部員	土木部長
本部員	教育長
オブザーバー	(公財)高知県観光コンベンション協会 専務理事



高知県
Kochi Prefecture

文化・生活・スポーツ部スポーツ課
高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号(高知県庁西庁舎)
電話:088-821-4712(直通) FAX:088-821-4716